

社会学的想像力とは何か

Mills, *The Sociological Imagination*, Oxford University Press, 2000 [1959]. (上村泰裕訳)



Charles Wright Mills (1916-1962)

「社会学的想像力の翼を広げよう——朝、一杯のコーヒーを飲みながら新聞に目を通す。そのコーヒーは、グローバルに展開する資本主義のシステムを通じて地球の裏側の国々とつながっています。一方、戦争や政変や危機や災害を報じる記事の陰には、私たちとよく似た無数の家族や恋人たちが住んでいることでしょう。身近な出来事を広い文脈と結びつけて考える能力、またそれとは逆に、広い世界の出来事を身近な問題として考える能力のことを、社会学的想像力と呼びます」(名古屋大学文学部社会学研究室ホームページ)。

1. 社会学的想像力のすすめ

「個人の人生と社会の歴史は、両方とも理解するのでなければどちらも理解できない」(p.3)。

「けれども人々はふつう、自分が耐え忍んでいる困難を、歴史的変化や制度的矛盾の観点から説明したりはしないものである。…彼らが自分の人生のパターンと世界史の進路との入り組んだ関係を自覚することは稀である。…彼らは個人的困難に向き合うとき、困難の背後にあるはずの構造転換を制御するような仕方で向き合うことができないのだ」(p.3)。

「社会学的想像力を持つと、大きな歴史的状況を、それが多様な人々の内面生活や外的生涯に対して持つ意味から理解できるようになる。また、日常経験の渦のなかで、人々がいかに自分の社会的位置を誤認してしまうことが多いかを考慮に入れることができるようになる。この渦のなかに現代社会の構造が探求され、この構造のなかに多様な個人の心理が

解明される。そのようにして初めて、人々の個人的な不愉快は明確な困難として焦点を結び、無関心だった市民も公共的討議に参加するようになるのである」(p.5)。

2. 社会学的想像力を培うには

「社会学的想像力は、一つの視点から別の視点へ素早く移動する能力と、その過程で全体社会とその構成要素を適切に見渡す能力にかなりの程度まで依存する。言うまでもなく、この想像力こそが社会学者をたんなる技術屋から区別するものである」(p.211)。

「あなたが思いつく一般的観念の多くは、いくつかの類型に分類できることがわかるだろう。新しい分類は、実り多い展開の出発点となるのが通例である。分類を案出し、各類型の条件や結果を精査する技法は、自動的にできるくらい身につけよう。既存の分類法、とりわけ常識的な分類法に甘んじることなく、各類型内や類型間の共通点や相違点を探求すべきである。分類基準が明確かつ体系的であることが優れた類型の条件である。明確かつ体系的な類型を構成するには、座標軸で考える癖をつけなくてはならない。言うまでもないことだが、座標軸の技法が使えるのは量的データに対してだけではない。実際、座標軸は新しい類型を想像し発見する最良の方法であるだけでなく、古い類型を批判し改善する方法でもあるのだ。図表や概念図は、すでに完了した研究を発表する際の手段であるだけでなく、研究のまたとない生産手段になることが非常に多い。図表は各類型を構成する軸をはっきりさせ、あなたが類型を想像し構成するのを助けるのである。…多くの意味で、座標軸の技法は社会学的想像力の文法そのものである」(p.213)。

「両極端を考察することで、しばしば最良の洞察が得られる。直接関心を持っている対象の反対物を考察するのだ。絶望の意味を知るには喜悦についても考えるとよい。吝嗇について研究するなら浪費についても研究しよう。単一の対象を研究するくらい難しいことはない。複数の対象を対比すれば素材が捉えやすくなり、すぐに比較のための軸を見つけ出すことができるだろう」(p.213)。

「多様な観点をを用いることが重要である。例えば、最近読んだ政治学者ならこの問題にどう取り組むだろうかと考えてみるのだ。あの実験心理学者なら、この歴史家なら、という具合に。多様な観点から考えることで、あなたの知性を、さまざまな角度から差す光線を最大限に捉える可動式プリズムみたいにするのである」(p.214)。

「時には、比率の感覚をわざと逆転させることで想像力を解き放つことができる。あるものが微小に見えるなら、それがじつは巨大なものだったとしたらどうなるかと想像してみるのだ。巨大な現象についてはその逆を想像しよう。無文字社会の村に3000万人が住んで

いたらどうなるか、という具合に」(p.215)。

「どんな問題に取り組むにしても、素材を比較のなかで捉える試みが役立つことに気づくだろう。同一の文明や時代のなかにせよ、複数の文明や時代にまたがるにせよ、比較可能な事例を探ることが研究の手がかりになる。…やがてほとんど自動的に、あなたは自分の考察を歴史のなかに位置づけることになるだろう。一つには、研究対象の数が限られていることが少なくないからである。少数の事例を比較のなかで捉えるには、それを歴史的枠組のなかに位置づける必要があるのだ」(p.215)。

「あなたがよく知っている主題について、ある一流大学の全学部から集まる教員と学生のほか、近隣の町から関心のある一般市民も聴きに來る会場での講演を頼まれたと仮定してみよう。知る権利を持つ聴衆を前にして、あなたも彼らにわかってもらいたいと思う。さあ、論文はそんな調子で書きたまえ」(p.221)。

3. 職人になれ、官僚になるな

「よき職人たれ。マニュアルに頼った固定的な仕事をするな。何よりも社会学的想像力を伸ばして用いることに努めよ。方法や技術を盲信するな。地味な知的職人の復権を要求し、あなた自身もそんな職人になろうと努力せよ。誰もが自前の方法論者となり、自前の理論家となるべきだ。理論や方法を職人の熟練技能の側に取り戻せ。学者個人の優位を主張せよ。技術屋どもの研究チームの支配に抵抗せよ。人間と社会の問題に自力で立ち向かう知性たれ」(p.224)。

「単一の小さな状況だけをあれこれと研究するのではなく、諸状況が編み込まれている社会構造を研究せよ。詳しく検討する対象は大きな構造を研究する観点から選ぶべきであり、状況と構造の相互作用がわかるような方法で研究すべきである。…人類史の全行程を視野に入れ、あなたが検討する週や年や時代をそのなかに位置づけよ」(p.224)。

「世界史のなかの過去や現在の社会構造に関する完璧な比較研究があなたの目標だと自覚せよ。この研究を成し遂げるには、現行諸学科の無根拠な専門分化を無視しなければならない。あなたの研究課題を、テーマや、とりわけ重要な問題に即して柔軟に設定せよ。問題を定式化し解明するにあたっては、人間と社会に関するあらゆる聡明な研究の視点や素材やアイデアや方法を、絶えず想像力豊かに躊躇なく利用することに努めよ。これらの古典はあなたのものであり、あなたも参加している大きなプロジェクトの一部なのだ。おかしな専門用語で古典を独占しようとする偽の専門家から古典を守れ」(p.225)。

「研究課題を決める際には、公共的問題の定式化を公共機関に委ねるのをやめるとともに、個人的困難を私的な感覚で論じるのをやめなければならない。何よりも、他人の用語に含まれる反自由主義的実用主義の官僚的精神や自由主義的実用主義の道徳的散漫を受け容れることで、あなた自身の道徳的、政治的な主体性を譲り渡してはならない。個人的困難の多くは個人的には解決できず、公共的問題の観点から、そして歴史形成問題の観点から理解されなければならないのだ。一方、公共的問題の人間の意味は、個人的困難に、そして一人ひとりの人生の問題に結びつけて初めて明らかにできるのだ。適切に定式化された社会科学の研究課題は必ず、個人的困難と公共的問題の両方、個人の人生と社会の歴史の両方、そして両者の入り組んだ関係を見渡す射程を含んでいるはずなのだ。この射程のなかで、個人の人生が展開し社会が形成される。そしてこの射程のなかで、社会学的想像力は現代における人間生活の質に変化をもたらす可能性を持つのである」 (p.226)。